

正殿二階御差床(高欄)について

沖縄総合事務局

【これまでの打合せでの論点】

- 二階御差床は、国王の御座所として極めて重要な場所であり、「寸法記」との整合性を確認し、県内外事例も参考に慎重に検討する。
- 古写真に写る御差床の形状に前回の復元との違いが見られることから、古写真の詳細な分析を行う。
- 古写真から読み取れる新たな知見(志まこ柱・欄干柱の形状、平桁の沈金文様)について、今回の復元に向けて、詳細な分析が必要。

【新たな古写真と「寸法記」の比較による分析状況】

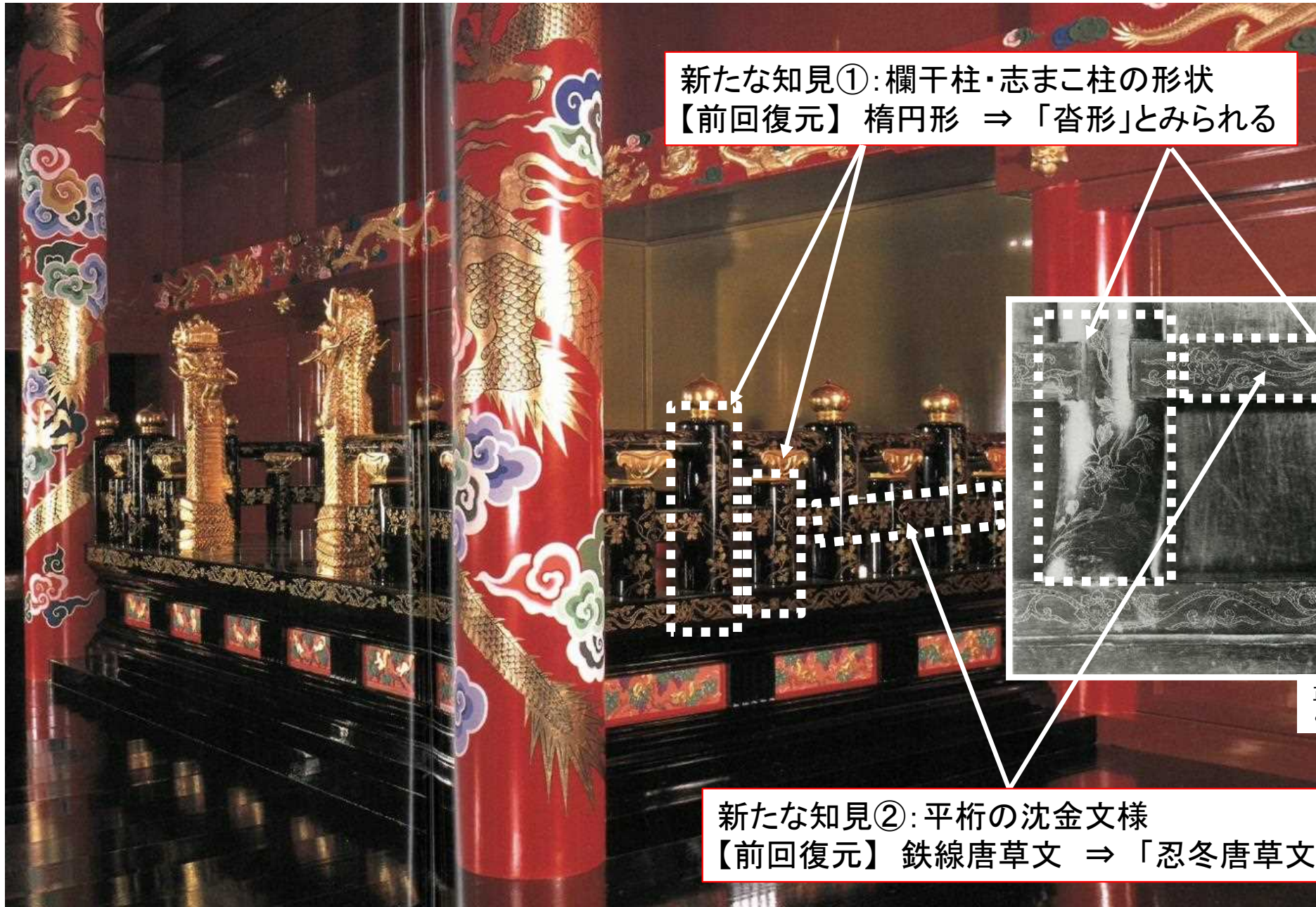
- 「寸法記」との比較分析を行った結果、古写真にはしまこ柱の上部が無いなどの違いがある。
- 『沖縄文化の遺宝』に掲載されている写真の原版と想定される写真が、沖縄県立芸術大学に保存されており、今回は両写真の比較分析を行った。その結果、忍冬唐草文の沈金文様は一致している。
- 「寸法記」では、欄干柱は縦幅7寸(212mm)、横幅4寸(121mm)、志まこ柱は縦幅5寸5分(167mm)、横幅が4寸(121mm)とあり、沓形の縦幅に1寸5分(45mm)の違いがある。
- 円覚寺(仏殿、三門)、崇元寺等の高欄の事例では沓形の事例が確認されておらず、正殿の高欄が沓形と分析されれば、極めて特徴的な事例となる。

【今後の対応方針】

- 新たな古写真と「寸法記」の高欄の記述から、各部寸法と組み方などを分析し、具体的な高欄の構成を検討する。
- 高欄の図面を作成し、それに基づいて模型を製作して、加飾の観点も含めた詳細の検討を行う。

正殿二階御差床(高欄)

○前回復元後の新たな知見(概要)



新たな知見①: 欄干柱・志まこ柱の形状
【前回復元】 楕円形 ⇒ 「沓形」とみられる

新たな知見②: 平桁の沈金文様
【前回復元】 鉄線唐草文 ⇒ 「忍冬唐草文」とみられる

正殿二階御差床高欄の一部
と想定される写真